

製品名: スプライシング因子 1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18202**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	68kDa

抗原情報

遺伝子名	SF1
別名	SF1; ZFM1; ZNF162; Splicing factor 1; Mammalian branch point-binding protein; BBP; mBBP; Transcription factor ZFM1; Zinc finger gene in MEN1 locus; Zinc finger protein 162
遺伝子 ID	7536.0
SwissProt ID	Q15637
免疫原	抗血清はヒト SF1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 48-97

背景

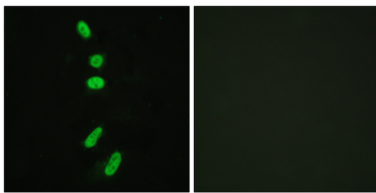
この遺伝子は、核内 pre-mRNA スプライシング因子をコードしています。コードされているタンパク質は、U2 補助因子 (U2AF) の

大サブユニットと共に、3'スプライス部位のイントロン分岐点配列を特異的に認識し、スプライソーム構築の初期段階に必要です。また、核内 pre-mRNA の保持と転写抑制にも関与しています。コードされているタンパク質は、N 末端 U2AF リガンドモチーフ、中央 hnRNP K ホモロジーモチーフ、および分岐点配列内の重要な分岐部位アデノシンに結合するクエーキング 2 領域、亜鉛ナックルドメイン、および C 末端プロリンリッチドメインを含みます。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2016 年 10 月]、代替産物: 追加のアイソフォームが存在するようです、機能: ATP 依存性スプライソーム構築の第一段階に必要です。プレ mRNA のイントロン分岐点配列 (BPS) 5'-UACUAAC-3'に結合します。転写抑制因子として作用する可能性があります。、PTM: Ser-20 のリン酸化は、U2AF2 の結合とスプライソームの組み立てを阻害します。アイソフォーム 6 は Ser-463 がリン酸化されます。、類似性: BBP/SF1 ファミリーに属します。、類似性: CCHC 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。、類似性: KH ドメインを 1 つ含みます。、サブユニット: U2AF2 に結合します。U1 snRNA と相互作用します。EWSR1、FUS、および TAF15 に結合します。、組織特異性: 肺、卵巣、副腎、結腸、腎臓、筋肉、膵臓、甲状腺、胎盤、脳、肝臓、心臓で検出されます。、

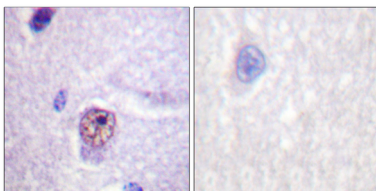
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; ドメインファミリー; ジンクフィンガー; DNA/RNA; RNA プロセッシング; スプライシング; 転写因子

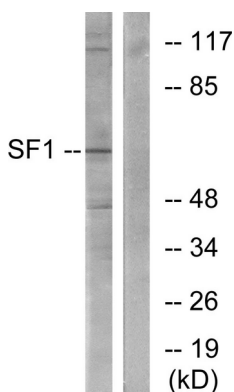
画像データ



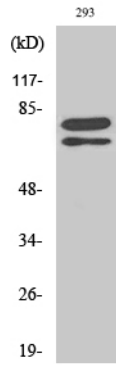
SF1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



SF1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



COLO205 細胞ライセートの SF1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンでは合成ペプチドでブロックされている。



1: 500 希釈のスプライシング因子 1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析